

相互行為における親しさの主張

：好みをめぐる友人間のやりとりから

高井美穂（大阪大学）

キーワード：会話分析、雑談、親しさ、好み、評価

1. はじめに

私たちは、親しい友人との雑談において、私見を述べ合ったり、価値観を共有したりすることがある。本研究では、そうしたやりとりのなかでも「好み」をめぐるやりとりに注目する。日本語教材で提示されている「好み」をめぐるやりとりの多くは、初対面かそれほど親しくない関係の相手とのものに限られており、親しい友人間でどのようなやりとりがどのようなになされるのかについてはモデルが提示されていない（高井 2018）。

筆者は、親しい友人に対して好みが変化したことを打ち明けるやりとりの分析から、「好みが変われば親しい友人にはそれが報告できる最初の機会に報告するべきである」という規範的期待が共有されていることを指摘し、打ち明けの発話における時を表す副詞「最近」の使用が、今がまさにその「最初の機会」であることを示していること、ゆえにそれが親しさの主張になっていることを明らかにした（高井 2018）。本研究では、親しい相手に対してまだ共有していない好みを初めて話すやりとりにおいて会話参加者らの好みの不一致が露呈した際に、本人に代わって相手はその評価の理由を推測して提示する行為に注目する。そして、この行為が会話参加者らの親しさの可視化に果たす役割について論じる。

2. 研究方法

分析にはエスノメソドロジーにルーツを持つ「会話分析」の手法を用いた。データは、同性の大学生及び大学院生の友人二者間の雑談（約 6 時間）の録音、及びその文字化資料である。会話参加者は計 9 組（男性ペア 3 組、女性ペア 6 組）18 名で、録音は大学の食堂や研究室にて行った。IC レコーダーの録音ボタンを押した後、筆者は退席し、自由に行ってもらった雑談を 30 分から 60 分程度録音した。録音中の飲食は制限しておらず、話題も指定していない。

録音の文字化資料から会話参加者らの好みの不一致が露呈しているやりとりをすべて抽出した結果、全 5 事例あったが、うち 1 事例については録音冒頭で会話参加者らが話題を決めてから話し始めたやりとりであるため、自然さの観点から分析対象から除外した。分析対象としたデータの文字化資料をもとに、西阪・串田・熊谷（2008）にしたがい、パラ言語的な特徴を含む詳細なトランスクリプトを作成した。各発話には「報告」「質問」といった行為のラベルを付し、やりとりがどのような行為の連鎖からなるかを分析した。評価対象となっていたのはいずれも著名人で、肯定的評価が多数派と思われるベストセラー作家（事例（1））、及び人気お笑い芸人（事例（2））であるが、会話参加者らの好みは一致していなかった。

3. 問題の所在

1 で述べたように、本研究では、親しい相手に対してまだ共有していない好みを初めて話すやりとりにおいて会話参加者らの好みの不一致が露呈した際に、本人に代わって相手はその評価の理由を推測し

て提示する行為に注目する。

一般的に、小さな子どもは別として、自分の価値観について最もよく知っているのは自分自身であると思われる。次の断片は、就職活動を控えた女子大学生の友人2人²⁾が、進路について話しているところである。シュウコは企業への就職を考えており、キョウコは地元に戻って高校教員になりたいと考えている。下の断片は、シュウコが「先生」の話の聞いてから大学院への進学もいいかもしれないと思った、と述べた後のやりとりである。キョウコの「企業とか就職したくないって思ってきたもん,最近」(85-86行目)という発話に対して、キョウコはその理由を尋ねている(87行目)。

(a) [進路] 女子大学生2名

- 79 シュウコ: えっ企業に入るんやっけ,先生なるん.
80 キョウコ: たし先生なる.
81 (0.15)
82 シュウコ: もう絶対?
83 キョウコ: >もう<絶 [対なる.
84 シュウコ: [↑絶対ええやん [° もうそなんむっっちゃ楽やん° .
85 キョウコ: [だって,もう,なんか企業とか就職
86 : したくないなって思ってきたもん,最近.
87 シュウコ: → なんで:?

一方で、筆者の所有するデータの中には、本人に代わって相手はその評価の理由を推測して提示しているやりとりが観察された。この行為がみられたのは2事例であった。本稿では、紙幅の都合上、村上春樹の作品に対する好みの不一致がみられた事例を取り上げる。

4. 分析結果

事例(1)[村上春樹]に先行するやりとりでは、別の作家の文章の巧さに関して会話参加者らの間で否定的評価が共有されている。(1)はそれに続くやりとりで、福田が「村上春樹」に対して否定的な評価をしている(55-56, 58行目)のに対し、根本は肯定的評価をしており(62行目)、評価の不一致が顕在化していた。その後、否定的評価を示した福田が理由探しを始める(64, 66行目)と、肯定的評価を示した根本が福田に代わって「(作品に)出てくる人が嫌いそうよね」と理由の候補を提示している(68行目)。3で述べたように、自分の価値観について最もよく知っているのは自分自身であろう。では①なぜ、根本は福田に代わって理由が述べられるのだろうか。また、②なぜ、根本が福田に代わって理由を述べるのが許されるのだろうか。

まず、①に関しては、根本が福田の好みに関して一定程度の知識を持っているからである、ということがいえる。千々岩(2015)は、話者の持つ別の他者に関する知識、例えばその人の名前、出身地、趣味、お気に入りのレストランなどを「あなた知識」と呼び、発話末における「あなた知識」の主張「ジャン」が、矛盾の指摘に用いられること、それが相手に対して行為の一貫性を求めるという指向のもとに行われることを指摘している。根本は、それまでに蓄積してきた福田に関する「あなた知識」を用いて、推測をしており、同時に、それによって「あなた知識」があること、すなわち親しい関係であることも主張していると考えられる。

(2) 〔村上春樹〕 男子大学院生 2 名

- 40 根本: だから, (0.4) >なんか<最近全然: (0.93) ≡>ストーリーとかテ
41 : ーマとか<どうでもよ (h) く (h) なっ (h) て (h) きてる.
42 (0.59)
43 福田: おん³⁾.
44 (4.28)
45 福田: でも辻村深月⁴⁾>とか<そうゆ-ストーリーとかテーマとかを重視し
46 : て (h) る (h) 感じじゃないの?
47 (0.53)
48 根本: うん, あの人文章あんまり上手ではないよね.h:
49 福田: ≡うん.≡
50 根本: hh
51 (0.8)
52 根本: >だからなんか最近<辻村, (0.2) なんか, 微妙になってきてる.
53 福田: あ=そ (h) う (h) なん.
54 (3.28)
55 福田: >あの<↑村上春樹もそんなに文章上手じゃないと思うんだけどど
56 う思う?
57 (1.0)
58 福田: 全然文章とかはいいと思わない.
59 (0.23)
60 根本: ほんと:..
61 (0.4)
62 根本: ぼく大好きだよ?
63 (2.25)
64 福田: °なんでだろう°なあ.
65 (0.23)
66 福田: なんていいと思わないんだろう.
67 (3.72)
68 根本: → >なんか<出てくる人が嫌い>そうだよね<.

次に、②については、発話位置が重要な鍵となっている。上の断片では、好みの不一致が露呈した後、否定的評価を行った福田は、独話の形式で「°なんでだろうなあ°」（64行目）とつぶやくように小声で言い、さらに「なんていいと思わないんだろう」（66行目）と問いをより精緻化している。この発話もやはり独話の形式である。答えを強く要求する発話ではないものの、自身は答えを持っていないことを述べる行為であり、根本が理由の推測を提示することを可能にしているといえる。

紙幅の都合でトランスクリプトは省略するが、お笑い芸人に対する好みの不一致がみられた事例(2)

でも、否定的評価の話者アカリは「あたしあの人なんかやだ:..」(113-114行目)、「や::なんか::..」(117行目)、「顔は:い:まあや別にどうでもいい¥とし¥て(h):hhhh.h::なんかやだ。」(120行目)と「なんか」を繰り返すのみで、自ら理由を述べようとしていない。否定的評価の理由を、相手のヨウコが「声じゃない?」と推測して提示したのは、120行目の「なんかやだ。」の次の発話位置であった。両事例ともに、否定的評価を示した話者が理由を説明できないときに、相手が代わりに「あなた知識」を使って推測し、提示していたといえる。

4. おわりに

以上の分析から、親しい相手に対してまだ共有していない好みを初めて話すやりとりにおいて、評価の不一致が顕在化した際、相手が「本人に代わって理由を推測し、提示する(できる)」という行為は、話し手自身が理由を述べられないことを明らかにした場合に、聞き手が話し手の好みに関する知識を用いて行っていることが明らかになった。

私たちは、日々のささいなやりとりから、相手の好みを知っていく。個別具体的な好みを知っているだけでなく、当の本人ですら気づいていない好みの傾向を、相手との関係の中で蓄積してきた知識をもとに分析してみせるという行為は、相手のことをよく知っているということ、すなわち親しさのより強い主張であるということができるだろう。

注

- 1) トランスクリプト記号は以下の通り。 , 音が少し下がって弾みがついていることを表す . 語尾の音が下がって区切りがついていることを表す (m.s) 音声途絶えている秒数 ? 語尾の音が上がっていることを表す >< 発話のスピードが目立って速くなる箇所を表す [発話の重なり始めの位置を表す ↑↓ 音調の極端な上がり下がりを表す ° ° で囲まれた音が小さいことを表す : 直前の音が延ばされていることを表す 下線 音の強さを表す (h) 笑いながら発話がなされていることを表す .h 吸気音を表す ¥ 笑い声で発話されていることを表す h 呼気音を表す
- 2) トランスクリプト中の名前はすべて仮名である。
- 3) 「うん」の意。
- 4) 録音前日、根本は福田に辻村の『名前探しの放課後』(上下巻ともに2007年12月出版)を貸している。

付記

本研究は、JSPS 科研費(課題番号 JP19K13231)の助成を受けた。

参考文献

- 高井美穂(2018)「友人間の雑談における好みの変化を報告する行為にみられる日本語母語話者の規範」、『グローバル化時代における日本語教育と日本研究』, 40-51, ハノイ大学出版。
- 千々岩宏晃(2015)「日本語の雑談での『あなたに関する知識を示す発話』の会話分析を用いた研究: 発話末の下降調の『ジャン』に着目して」, 『日本語・日本文化研究』, 25, 78-89, 大阪大学大学院言語文化研究科日本語・日本文化専攻。
- 西阪仰・串田秀也・熊谷智子(2008)「特集:『相互行為における言語使用: 会話データを用いた研究』について」, 『社会言語科学』, 10(2), 13-15, 社会言語科学会。